

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践事例

チームで取り組む クイズ式Writing活動

調布市立第五中学校
橋本 浩

はじめに 令和2年度を襲ったコロナ禍が、いまだに猛威を振るい、通常の学校教育活動を展開できない状態が続いています。この新型コロナウイルスの世界的大流行を受け、GIGAスクール構想も、その必要性の高まりとともに、整備が急加速していきました。このように、以前とは全く異なる学習環境の中で、生徒たちの英語4技能をどう高めていけばよいのか、頭を悩ませている毎日です。現在、自身の検討課題は以下の通りとなっています。

- ① 主体的・対話的で深い学びをどう展開していくか。
- ② 得た知識を活用（話すこと・書くこと）に結びつけるための、満足いく取り組みとは…。
- ③ 「楽しみながら学ぶ」「その場で学ぶ」ためにつくりあげるべき授業スタイルとは…。
- ④ 即興で文章を組み立て、その場で発表する力を伸ばす取り組みとは…。
- ⑤ ICTをどう活用するか。

まだまだこれらの課題を解消できてはおりません。したがって、試行途中ではありますが、Speaking活動への結びつきを意識したWriting活動を紹介します。

チームで英文作成クイズにチャレンジ！

※チーム戦での活動です。クイズ番組のように、指定したパネルを開いて現れた画像を、生徒が英文で表現する取り組みです。英文に誤りがなければポイントをゲット。文構造の理解や基本的なSpeaking活動など、ひとつおりの学習を終えたあとの取り組みです。

(1) 事前準備 (用意するもの：①ノートパソコンかタブレット ②プロジェクター ③回答用紙 ④ペン ⑤マグネット ⑥チョーク)

A	B	C	D
<u>40</u>	<u>40</u>	<u>40</u>	<u>40</u>
<u>60</u>	<u>60</u>	<u>60</u>	<u>60</u>
<u>80</u>	<u>80</u>	<u>80</u>	<u>80</u>
<u>100</u>	<u>100</u>	<u>100</u>	<u>100</u>

- ① パワーポイントの1ページ目に表を作ります。
1コマの授業でこなせる量には限りがあるので、左図くらいのものが適切かと考えます。
- ② 2ページ目以降にクイズ問題となる課題を作成します。
表の数字がポイント数になります。40点が簡単な問題、100点は難しい問題、というように、グレードを合わせて問題を作るとよいでしょう。
- ③ クリックでページが切り替わるように、表のページと問題のページにハイパーリンクをかけます(数字→問題のページ/「もどる」→表のページ)。

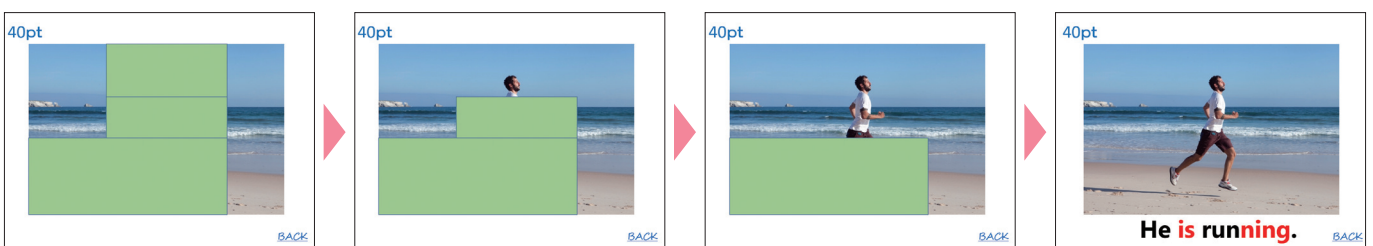
(2) 進め方

- ①生徒を5～6人の6グループに分けます。
- ②各グループ内の生徒1人ずつに番号を割り当てます。(Student number 1, 2, … 5, 6)
- ③各グループに長方形にカットした画用紙数枚と、黒ペンを1本ずつ配布します。
これが、回答用紙と筆記具になります。回答用紙の右下にはグループナンバーを書くよう指示します。
- ④第1グループ、Student number 1の生徒が表から1つパネルを選びます。
「A-40, please!」や「C-80, please!」のように言います。
- ⑤問題を提示したら、回答（英作文）がスタートとなります。回答制限時間2分程度です。
- ⑥各グループのStudent number 1の生徒が回答しますが、グループの中で相談OK。
みんなで辞書調べもOK。chromebookの利用もOKとします。
- ⑦回答用紙に英文を書いたら、教卓に持っていきます。各グループからの回答は、裏返し、黒板にマグネット
トでとめていきます。
(提出が早かったグループがいちばん上。あとは到着順に上から下へ貼り出していきます。)
- ⑧時間になったら、回答の到着が遅かったグループから（下から）回答をチェックしていきます。
- ⑨文法等の誤りがあったら、アウト。→その場で教師が添削し、アドバイス。
正解だったとしても、もっと早く提出したグループが正解していたら、ポイントはそちらに付与。場合
によっては全グループ不正解（全滅）もあり得ます。
- ⑩チェックが終わったら、第2グループのStudent number 2の生徒が次のパネルを選びます。これが
第2問となり、回答者は各グループのStudent number 2の生徒になります。
→以下、これを繰り返します。

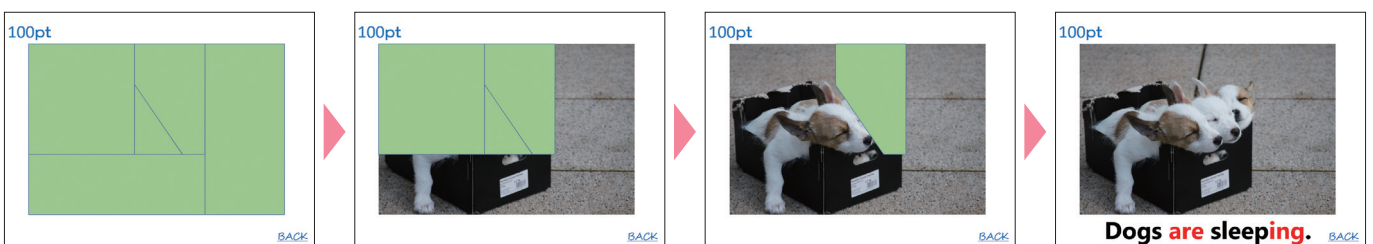
【問題例 1】

※これは現在進行形の単元で用いたクイズです。最初から画像が見えるわけではなく、少しずつ画面が見えるようにしていくと、生徒も楽しめるようです。

「40点問題」



「100点問題」



【問題例 2】

100pt Make a Sentence!



BACK

※これは、画像を見て自由に英文を作成する問題です。

これまで、習ってきた英文法を用いて、この子の気持ちを書くもよし。動作を書くもよし。これからどうする予定なのかを書くもよし。というわけです。

今後は、即興で文章を組み立て、その場で発表する機会も増えていくでしょうから、このタイプは英作文の作業でありながら、Speaking力向上にも役立つ取り組みであると考えます。

(3) この活動の利点

- ①グループごとの競い合いになるので、主体的に集中して取り組むようになる。
- ②いつも同じ生徒（英語が得意な生徒）が回答するのではなく、1問ごとにグループ内の回答者がローテーションしていくので偏りが無い。
- ③教え合い学習、調べ学習が自然に進められていく。
- ④その都度回答をチェックし、回答のどこがすばらしく、どこが修正されるべきなのかをフィードバック。共有できる。
- ⑤正解が1つに決まっているわけではないので、様々な表現方法に触れることができる。
- ⑥教師によるAll in Englishでの授業展開が可能である。

(4) 今後の展望

- ①グループ構成をより少人数にしていきたい。（1グループ3～4人）
- ②Chromebookを使って、各グループの回答を一挙に黒板投影できないか検討したい。
- ③クイズ番組のように、正解は赤・不正解は青に色分けをしたり、拡大投影して回答の添削をしたりするなど、クラス全体へのフィードバックが手軽にできるような方法を模索したい。

最後に 今後、生徒一人一人が端末を最大限に利用できるようになった場合、互いの考えを共有したり、意見交換をしたりというようなコミュニケーションも、当然活性化していくことになるでしょう。今回紹介した実践事例も、それに伴って、どのように改善していけるのかが楽しみの1つでもあります。「創造性を育む学び」はGIGAスクール構想の1つの重要な考え方です。1つの画像から、いろいろな英文を作文できる「想像力」と「創造力」はSpeakingにも活かすことができるでしょう。これからも様々な取り組みを通して、楽しく学べる空間づくりに力を注いでいきたいものです。

